

《修士論文要旨》

漢代における軍隊の運営について

—補給体制から見た軍の運営—

* 山 縣 奉 史

論文の題目は「漢代における軍隊の運営について」で、副題が「補給体制から見た軍の運営」である。

第一章では漢の軍事制度についての研究史を中央軍、内郡の軍、辺境軍に分けてまとめた。中央軍に関しては南軍北軍についての各研究者の説をまとめた。内郡については郡県が中心となっていた徴兵制度についてまとめる。辺郡については、居延漢簡より最前線である燧から都尉府までの機能をまとめた。

第二章は食糧の補給について研究した。軍の運営上最重要ともいえる食糧の補給について防衛軍と外征軍とに分ける。

一節は防衛軍の補給についてである。まず初めに支給の流れ、都尉府から候官、そして各部燧へとということを確認した。支給された食糧に対して簿籍と呼ばれる文書で複数回確認したことがわかった。このため不正や運配給ミスを防ぐ役目を果たした。次に兵士に配された食糧の生産地について研究した。辺郡は設置当初は中央政府に頼らざるを得ないが、安定したならば屯田や代田法の利用により食糧の自給ができていたと考えている。

外征時の補給であるが、これに関してはほとんど機能していなかった。理由としては、漢の主要な戦争相手が騎馬民族の匈奴であったことから補給を考えない短期決戦型の戦略を取るようになったのである。

第三章は武器の管理と補給についてまとめた。第一節は武器を収める武庫についてまとめた。武庫は首都や各郡、辺郡、洛陽などにあつたが、長安、洛陽、辺郡の武庫は中央に所屬していた。これは中央政府が武器に対して大きな関心をもっていたからで、また内郡の武庫も中央の許可なく使うことはできず、漢は武器を徹底的に管理していた。

二節は武庫に収蔵された武器についてである。尹湾漢簡より東海郡の武器の内容がわかり、その規模は想像以上に大きかったことがわかった。また辺郡の兵器と対比すると弩や剣といった物は共通しているが、匈奴と対する辺郡には戦車がないなどの特徴がある。武器の管理は食糧と同じく多くの文書を作成し、武器一つ一つが管理されていた。辺郡は武器の使用は許可されていたが、文書行政による管理が徹底し

ていた。

以上まとめてみたが、漢代の補給体制は国内ではよく機能していた。このために高い防衛能力が維持されていたのである。

修論では漢代の軍の運営というテーマを補給という点にしぼって論じてみた。